

## シラバス (通信課程)

指定番号 19

商号又は名称：株式会社ケア・ライフハーモニー堺

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①多様なサービスと理解	3	3		
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職である事を自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するためにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①人権と尊厳を支える介護	4	1	3	
②自立に向けた介護	3	1	2	
③人権啓発に係る基礎知識	2	2		
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	0.5	0.5	
②介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	
④介護職の安全	2	1	1	
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①介護保険制度	4	0.5	3.5	
②医療と連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	
③障がい者総合支援制度およびその他制度	2	0.5	1.5	
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーションの能力は1人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①介護におけるコミュニケーション	2	1	1	
②介護におけるチームのコミュニケーション	4	2	2	
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	加齢・高齢化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	1	0.5	0.5	
②高齢者と健康	5	2.5	2.5	
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	
④家族への支援	1	0.5	0.5	
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	
③家族の理解、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①介護の基本的な考え方	5	4	1	
②介護に関するこころとのしくみの基礎的理解	2	1	1	
③介護に関するからだのしくみと基礎的理解	3	2	1	
④生活と家事	2	2		
⑤快適な居住環境整備と介護	3	3		
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	10	7	3	
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	10	7	3	
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	10	7	3	
⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		
⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		
⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	5	5		
⑬介護過程の基礎的理解	5	5		
⑭総合生活支援技術演習	5	5		
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(10)振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、卒業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙参照)
①振り返り	2	2		
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2		
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。